

夏のイベント盛りだくさん 観光人口 増加に期待



中学生がカヤック体験。一般の人でも利用できる（伊ヶ谷）

噴火以降、観光人口はそれまでの約半数にとどまっているが、映画「ロック」などで取り上げられたことにより世間の注目が集まっている今年夏、多くの人が訪れることを観光業界は期待している。

復興・再生の途上にある三宅島。主な産業として観光事業に力を入れているが、噴火前の観光人口は約8万人であったのに対し、帰島後は半数の復興・再生の途上にある三宅島。主な産業として観光事業に力を入れているが、噴火前の観光人口は約8万人であったのに対し、帰島後は半数の



2009年の牛頭天王祭

出張おさ
長太郎池
島の夏一
験！三宅
は、「体
ツコ館で
アカコ
ている。
し検討し
日を予定
28日・29
7月28日・29
会主催

光協会は、最近「ロック」は、映画

7月のイベント紹介

「わんこの島」やNHKテレビのあさイチで三宅島が紹介され常連の釣り客やダイバー以外の問い合わせもあり今後に期待している。

・7月中旬の連休始め神着で牛頭天王祭神輿を検討している。
・ふれあいランド三宅島マリンスコール 商工会主催 7月28日・29日

8月・10月の予定

【8月】
・W E R I D E 親子バイクキャンプ 3・4日
・近畿ツーリスト主催。トライアスロン大会
・IN三宅島 25日 阿古来年の国体に向けて全国の代表が参加。
【9月】
・大路池ガイドウォーク 15日・エコ茶話会 30日

を、22日11時～15時実施。泳げる人は誰でも参加できる。（8月4日10時から、5日11時から、18日10時から）の計4回実施）
○土方海岸フィッシュウオッチング 29日9時半より実施。申込み締切7月26日。
☎04994(6)0410
他にも様々あり。

【10月】
・W E R I D E 三宅島 13・14日（バイクレース）
宿インフォメーション
三宅島便は、東海汽船（JR浜松町駅）22時20分出港。料金は、7月で2等8770円、8月は多少減。学生、事前購入割引などHPで。お勧めは特2等。

民宿は、観光協会会員特別（繁忙期）協定料金で大人2名以上一泊二食付き各8000円（一人は、10000円増）
観光協会問い合わせ ☎04994(5)1144
他には、穴原奈都さんが、体験ツアーや自然ガイド「キュルル」など立ち上げており、よき相談相手となる。
☎090(4741)4984

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○島市
8月17日（金）11時より阿古漁協お魚センター広場にて開催されます。

○第29回世話人会開催
9月8日（土）18時30分より巣鴨ルノアール会議室で開催いたします。世話人の皆様、ご参加ください。

○ご寄付のお願い！
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：大石・加藤

情報は生かされたか? ー全島避難までー

掌握 操作された会見も



状況判断に活用できず

静岡大学教育学部総合科学教室の小山真人先生は、火山噴火予知連絡会会報（NO78）で「2000年の三宅島に

噴火災害検証の3回目は、三宅島噴火に関する情報の話である。当時は、テレビや島の防災放送がたよりであったが、その後インターネットを通じて流されている情報を見ると、当時は操作された情報により混乱を招いた面もあることが明らかになった。このようなことを検証するのは、災害時の課題を明らかにすることに繋がる重要なことで、ぜひ皆様からも意見をいただきたい。

関係する火山活動評価・情報伝達上の問題点」で次のように指摘している。「現地情報の把握・活用

上のホームページや掲示板において、住民個人や現地取材中の報道機関から準リアルタイムで豊富な現地情報や画像が発信されたことである。それらの中には、専門家の目で選別すれば非常に貴重・有用なものがあり、現地にいなくても噴火の現状が手に取るようになる時期もあった。しかしながら、気象庁と予知連伊豆部会は当時それらの情報を十分把握したり、状況判断に活用したりすることができなかった。

また別の論文では、「インターネットは火山危機における社会構造と構成集団の関係のあり方に変わる。2000年9月2日午前7時、4日までの3日間で全島避難を指示、島民は慌しく定期船に乗船した

化をあたえはじめている」と述べ2000年の有珠山と三宅島の火山危機に対して群馬大学教育学部早川由紀夫教授のトップページの総力ウェット数は30万以上に及んだと述べている。

しかし残念なことにはまだ火山ガス専門委員は、「現地情報の把握・活用の失敗」の反省はなく高濃度地区住民の火山ガスに対する日常生活の経験を聞くこともせず、家屋・財産を崩壊させるとともに生業の手段を奪ったままである。今回の村長選挙が「あり方の変化」のきっかけとなるように、櫻田村長と共に声を高め専門委員を動かさなくてはならない。

ネット上に違う世界が

2000年08月18日／時／分／秒 投稿〇〇「今まで安全地域とされた伊豆地区も降灰しています。：全島避難勧告といつてもいいだろう。地震も揺れたまま止まる気配をみせません」。パソコンで「2000

年三宅島噴火」を検索すると、早川由紀夫群馬大学教授や千葉達郎アジア空測株式会社・日大非常勤講師「ある火山学者のひとりごと270012799」などを見ることが出来る。

2000年8月18、19日の大噴火では、24時間数秒または数分刻みに投稿されている。三宅島島民、マスコミ、防災関連企業者と思われる者など多様である。

私など高齢者にとつては、村の防災放送とテレビだけが頼りであった。特に、村の放送よりテレビが早く放映をするなどして奇妙な感覚に捉われたことを覚えている。

しかしテレビも噴火の行方については、専門家の見解の違いが強調されます。ますます困惑した。これまで経験したことのない噴火の為に一方で経験上楽観しながらも、恐怖の24時間を過ごした。

あらためて後日パソコンを手にとってみるとそこには、まったく違った世界が見えてきた。各分野

復興支援を考える勉強会 元三宅支庁総務課長が主催



東京税理士会館で行われた勉強会

5月7日、東京税理士会館で、危機管理勉強会齋藤塾や災害復興まちづくり支援機構らが主催する「三宅島の復興支援を考える報告・交流会」が行われた。

18時から始まった第一部では、三宅島の復興を支援している大妻女子大学人間関係学部教授の干川剛史教授による在京島民に対するアンケート結果の報告、三宅島緑化プロジェクトを主催するNPO法人・園芸アグリセンターの宗村秀夫理事長

から報告が行われた。この中で島の近況を語った佐藤就之会長は、「今後、観光面に力を入れていきたい。緑化活動に参加してくれた都立園芸高校の生徒が卒業後、植えた木を見に来てくれると嬉しい」と緑化活動に対する感謝と今後の復興支援について述べた。

その後、19時30分より行われた第二部は、島特産の明日葉などを使った料理を囲んでの交流会。参加者は和やかな雰囲気の中交流を深めた。

「三宅島の復興支援を考える報告・交流会」を主催した齋藤氏は、危機管理勉強会の齋藤塾塾長で、社会貢献学会副会長を務めている。

齋藤氏と三宅島のかかわりは、氏が2003年から06年まで、東京都三



齋藤氏プロフィール

宅支庁総務課長を務めたことである。今回の報告・勉強会も含め、現在も三宅の支援を続けてく

ださっている。

06年以降11年までは都の総合防災部情報総括担当課長の職に就き、11年3月に退任以降、現在の仕事をされている。また、11年3月に発生した東日本大震災の際には、都災害対策本部の広報班の責任者を務め、プレス対応や区市町村・事業者団体への講演などを行った経歴を持つ。

会長時評

噴火災害検証③

不十分な

決まっていた!?避難

小山氏は、「火山における知識・情報の伝達と普及」で青山副知事へ当時「結局は全島避難だとみんな考えていた。熾烈な議論をしていた。8月18日の噴火のあ

とは、日にちの問題だった。でも混乱を避けるため全島避難だとわかっていても、テレビのインタビューでは『いや、まだしません』と逆に私は言い切った」と第4回火山予知連シンの講演で述べたと早川教授と共に問題視している。

私もこれには驚きである。全島避難指示前には、7割の島民は自主避難をしており混乱は避け得たと思う。功労者の青山先生には、島民を信じても

らえず残念な思いだ。何故なら当日の避難指示では、島民はまず心構えが十分出来ず避難のための必需品の保持と避難中の家屋、事業所等の保全処置も出来なかった。さらに被災者に一番大切な「孤立せず助け合う」ための家族、親族、友人、知人、集落のコミュニティの確保ができなかったからである。このことが避難の長期化により、家屋、生活資財、事業所などの損壊を大きく

した原因にもなった。

検証を今後の糧に

福島原発の例でも真実を曇らせる情報操作は、被災者と行政・専門家間の不信感を増大させるだけに止まらない。行政責任者が最も留意すべき点は、計算された「独善的」判断により情報操作をすることにより「被災者の自衛手段」を奪うことにもなる点だ。

結果、被災者と地域の再起・再生をも困難とし

不可能にしかねない。この責任は、首長と行政責任者にかかってくることを自覚し、心して取り組んでもらいたい。これを被災者は、みな切望しているのである。私は、災害危機管理の本質は、この点にあると学ぶことができた。

三宅島噴火の検証は、重大な普遍的課題を浮きぼりにするチャンスでもある。皆さんのご意見を拝聴したい。

(12・6・10記)

緑化プロジェクト ネットも初参加
雄山を緑豊かに



6月1日～3日、NPO法人園芸アグリセンターが主催する三宅島緑化プロジェクトの一環として雄山に植樹が行われた。

今年で8年目、年に2回（6月と11月）行われているこのプロジェクトは今回で15回目を迎えた。

2000年に噴火した雄山は、全島避難指示が解除された05年の時点では、茶色の山肌に立ち枯れた木が残っている状況だった。その後自然の回復力と緑化活動の成果で、緑豊かな山に戻りつつある。

今回植えた苗木は、やぶつばき、ひさかき、いばたの3種類。地元
の有志による指導のもと、参加者
は10班に分かれて、一班で300程
の苗を植えた。三宅島は風が強い
ため、植える際はしっかりと根付
くように深く穴を掘り、根が揺れ
ないように被せた土をよく踏み込
むなどの配慮がされた。

ネット会員の山中恵美子さんは、「苗木が育っているか見届けるためにも、今回出会った方々に再び会うためにも、11月23日の活動も参加したい」と語っていた。

あおぞら市

リピーターの姿が多数

たけのこは2時間で完売



神楽坂商店街に出店したネットの物産店。売れ行きは好調だった

では、明日葉、
くさや、たけ
のこ、ささぎ
を使った赤飯
といった定番
商品をはじめ
め、実演販売
では明日葉の

ふるさとネットは、三宅島現状を多くの方知ってもらうことなどを目的に、5月20日に新宿区神楽坂商店街で行われたあおぞら市に参加。島の特産品の販売を行った。

あおぞら市にふるさとネットが参加は7回目。この行事への参加は、ふるさとネットにとつて特産物の販売をするともに、島の現状を伝える恒例行事となっている。

【おたより】

神楽坂あおぞら市のお誘いがあり足を運びました。島の特産品を多くの方が買ってくださりとても嬉しく思いました。

私は避難後2度引越しました。引越費用の補助がないこともあり、冬の日には暖房の止まった中で荷物をまとめ、体調を崩してしまいました。今は近所の方とも声をかけ合い、お水や食料品も常備して災害に備えています。（在京北区在住 H様）

【ご寄付者名】

崎山敏也様、池田金好様、吉田
信行様、特定非営利活動法人司
法過疎サポートネットワーク様、
M様、広瀬和樹様、古地敏博様、
宮澤雅美様、大内一宏様、鈴木
節子様、小河原武弘様（4月1
日～5月30日）

ありがとうございました。

てんぷらを提供した。
訪れる方に三宅の特産品が販売されていることが周知されるようになってきていることもあり、売れ行きは好調で、正午の開始から2時間後には、たけのこが完売した。その後も順調に商品が売れ続け、18時の終了時には準備したものをほぼ売

りきることができた。

くさを購入したお客さんの一人は、「毎回楽しみにしている。今晩くさを食べながら一杯やるのが楽しみ。これから頑張って」と声をかけてくださった。

この日参加したのはふるさとネットおよびDTPAのメンバーで、販

売をしたテントの横に、2000年噴火からの状況などを掲載したパネルを展示をしたり、訪れた方に三宅島新報を配布したりするなどの広報活動も行った。

編集後記

7回目を迎えたあおぞら市は、毎回足を運んでくださる方々も多く、私たちも嬉しく思っています。

緑化プロジェクトなどにより、三宅島には徐々に緑が戻ってきているのが伺えます。今年も島を訪れ、島の自然に触れたいです。